

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 Aユニット)

事業所番号	0670400928		
法人名	グループホームふきのとう株式会社		
事業所名	グループホームふきのとう		
所在地	山形県米沢市塩井町塩野2057		
自己評価作成日	平成25年11月28日	開設年月日	平成15年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、庭には畑や花があり、野菜(大根・白菜・ねぎ等)や柿の木、ふき等の収穫や旬の味を楽しんでいただいている。隣接して医療機関があり、密な連携がとれており、急変時や有事の際にはすばやい対応が可能となっている。また、運営者が看護師であり、敷地内に居住している事から24時間の対応が可能。
地域の小学校や保育園、地区との交流もあり協力体制ができています。ホーム内ばかりで生活するのではなく、外出や散歩など戸外での活動機会を多く取り入れている。また、外出は個別でも対応をしており、個性を尊重した関わりに配慮している。ホームには職員が作詞作曲した「みんなは家族」という歌もあり、皆で歌っており明るく笑顔の絶えないホームである。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はこれまで多くの利用者・家族等と築いてきた信頼と絆、いつも親身になり協力してくれる地域の方々の応援に支えられ10年を迎えました。今年には理念の見直し、介護計画の記録様式の変更、運営推進会議の名称を「ふきのとうよりあい」にするなど、常に利用者の暮らしを一番に考えた質の高いグループホームの在り方に努力をしています。和気あいあいとした雰囲気の中にも、利用者に対する言葉遣いやマナー、礼儀など接遇に配慮した関わりを持ち、また24時間の医療連携、終末期の支援、避難訓練の地域の協力体制など地域に密着した事業所作り、サービス向上に力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 26年 1月 9日	評価結果決定日	平成 26年 1月 29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度より目標にも掲げ取り組んできた理念の変更を実施。全員で周知徹底した。また、変更後に定期的に実践できているかの振り返りを実施。共有し実践につなげている。	理念を見直し、新しく地域交流を大切に「地域で暮らせてよかった(と思える活動を)」を加え、職員間で理解の共有を図っている。利用者に対して理念に沿った関わりをしているか、振り返りながらケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校、保育園の行事の参加。天気の良い日は保育園まで散歩したりしている。地域のカラオケ慰問、清掃の参加等交流を図れているが、状態の変化により日常的とまでは行っていない。	利用者がこれまでの暮らしを続けられるよう、積極的に地域と交流を持っている。保育園・小学校の運動会や芋煮会への参加など、子供達との触れ合いの中で優しさや笑顔に癒されている。ボランティアが定期的に来訪し、多種多様な活動で楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進委員会の開催の際に会話や質問に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	口頭のみではなく、ビデオで映像を見てもらい意見を頂いている。不参加の方にも郵送し情報を共有している。	3ヶ月に1回活動や事業報告など行い、定期的に開催している。メンバー(保育園園長や他市ケアマネージャーなど)から外出時のスライド写真をみてもらい、「充実した活動が素晴らしい」と評価をもらっている。意見や要望など取り入れ、改善に向け取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の方へ伺った際、ホームの現状を伝えたり、わからないこと、あいまいなことに関しては常に問い合わせし確認。知識の向上に努めながら連携を図っている。	市とは事業所の状況や事故報告、不明点の確認など、日頃から理解と支援を得ている。毎月、介護相談員が来訪し利用者の昔話や今の生活などに耳を傾け、思いを受けとめてもらい利用者の楽しみとなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	不穏行動により、離設の危険があるため施錠した。転倒防止のためセンサーマットを設置した。内部の学習会にて知識習得に努めた。	職員は拘束について勉強し理解に努めている。予測されるリスクを家族等と話し合い、状況変化に応じてマットやセンサーなど使用し安全に繋げている。日頃から声のトーン、言葉遣いなどに十分に配慮し上から目線にならないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部学習会にて知識習得に努めた。また、ケアの実践の中での無理強いや声掛けも場合によって虐待につながることを理解し、どのように対応・声掛けしていくか話し合いを持った。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は研修の受講はできなかった。現在該当ケースがあり、関係者と話し合いや相談、協力し活用している。また、他の利用者様についても必要性があれば家族への説明を考えている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間がかかることを予め説明しており、時間をかけて説明を行っている。説明後には必ず不安や疑問がないか尋ね、理解・納得を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の定期開催により外部の方へ意見を述べる機会がある。 家族の面会時に近況報告し、希望・要望に応じ取り組んでいる。	家族等とは時間をかけて築いてきた厚い信頼関係があり、入居してから見せた利用者の表情の変化、一人ひとりへの細やかな心遣い、終末期の手厚い介護などに多くの感謝の言葉が寄せられている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	研修会の定期開催(月1回) 朝夕ユニットの申し送り時にお茶を飲みながら意見を言える関係性になっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外の手当が支給されている。職員の状況を把握している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加。 経験年数に応じ、適切な研修が受けられるよう配慮されている。各試験の合格者を次々と輩出。	夜間開催の外部研修会に参加し、受講してきたことは報告書で情報共有している。内部研修は毎月1回議題(避難訓練、法改正、AED、感染症など)を決めて繰り返し覚えるようにしている。習得したことが自信に繋がり、利用者の関わりに反映されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ブロック会、交流会または交換実習を通じ意見・情報交換を行いながらホーム外の職員の意見も取り入れ、よりよい援助ができるよう取り組んでいる。	交流する機会を持つことは、日々のサービスやケアに役立つ学びが多くあり、とても良い機会と捉えている。近隣の事業所が利用者と一緒に広報紙を持参し、お茶飲み話をしながら交流している。こちらからも出向く機会を検討している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人との面接を行っており、時間をかけて聴き取りをおこなっている。入所後知っている顔があり安心できるような配慮をしている。また、入所を受け入れられない方に日帰り及び宿泊と段階的に慣れていただけるよう対応する準備がある。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの際には、必ずホームの見学をしていただき雰囲気を見ていただいた上、時間をかけて説明、会話をもち、納得の上で申し込みしていただいている。入所時も同様に必ず不安や疑問を尋ね、確認してから入所していただいている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み後も定期的に状況把握しており、状態によっては他のサービスをお勧めしている。申し込み段階で、他にどんなサービスがあるか、市内の他のグループホームは何件あるか？当ホーム利用以外の情報も提供している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に縄なえや男結び、調理、洗濯、掃除など教えていただく場面がある。共に学び支えあう関係構築ができています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じ家族が泊まりたいとの希望を受け入れ、時間を共有していただいている。入院時、医療機関との連絡および洗濯の対応を行っている。日常的に時間外でも個人携帯電話への連絡を受け、相談援助の実施を行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚が営むラーメン屋、通っていたラーメン屋、金融機関、墓参り、自宅、地元の近所の方宅、美容室へ行く機会の確保。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩や会話を利用者同士で誘い合っている。また、家事活動(盛付、おしぼり作り、掃除)を協力し合っている。ケンカもあるが、意見をぶつけ合う場面が持てている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先や家族との相談に応じ、連携をとり、退所後の経過確認、面会等を行っている。お会いした際には積極的に会話を持っており、ご家族が退所後も顔を出してくださる関係ができています。死去後も連絡を取り、状態の確認を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をくみ、即対応している。食事の要望、要求に対して対応できるよう配慮している。会話の中から要望の把握に努めている。	日常の何気ない会話の中で傾聴しながら、一人ひとりの思いや願望の把握に努めている。思いを言葉に出来ない方は、表情やしぐさ、行動などから汲み取り、家族等からの話も参考にし細やかな対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食事時の会話や家族からの情報をもとにミーティング等で報告。共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に状況を観察・判断し、本人・家族や医師の意見も考慮しながら毎日の申し送りや毎月のミーティングの場で情報の確認・共有をし対応を検討している。センター方式を活用し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、日々のミーティング、家族からの情報を、元に計画作成。記録様式の変更により、日々ケアプランに沿った支援及び日常的にモニタリングを行っている。	記録様式の見直しにより職員は一日の流れや気づき、対応したことなど書き込み、本人本位の計画をに沿ったケアに繋げ、成果が得られている。利用者の意向や家族等の思いなどを考慮した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応した職員が気づきのメモ帳に記入。ミーティングでの情報共有および見直しを行っている。ケース記録様式の変更を行い、より見やすい記録が可能にした。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、小学校の行事参加。 地域の清掃参加。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選任は希望にそっており、ホームでの受診対応を実施している。変更希望された場合は、協力医院の情報提供をし、往診や緊急時の対応実施。	ほとんどの利用者は希望して協力医をかかりつけ医とし、通院支援すると共に、ノートやFAXで情報を伝え、毎週の往診に役立てている。急変時は看護師(隣接居住の理事長)に連絡・指示のもと医師や救急車の手配等スムーズに行えるようにしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	理事長が看護師のため24時間対応が可能。理事長が朝夕のミーティングに参加し日々情報を共有している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	面会をまめにし、医師・看護師と情報交換をしている。また助言をいただいている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの同意書を家族から頂き、医師・家族・事業者でチームとしてケアプランに基づき支援している。	契約時に家族等と話し合い看取りの同意書をもっている。容体の変化や重度化時は主治医・家族等と相談の上、ケアプランの変更や医療の判断を仰ぎ人生の最期の段階まで支援していく方針で介護にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会でのAED訓練。外部でのAED講習会受講。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。地域の方にも参加していただき、協力・連携体制を構築している。	定期的な火災避難訓練には近隣住民の参加もあり、職員と共に避難経路や避難口を確認し、誘導や介助が必要な方の搬出方法を習得している。毎日の地域との付き合いの中で協力関係を築き災害等に備えている。	雪害や地震など火災以外の災害に対応できる取り組みにも期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー研修を年1回実施。接遇を学ぶ機会がある。また、スタッフ会議において個々への対応について話し合いを持ち取り組んだ。	職員は日々の関わりで言葉遣いはもちろん利用者と同じ目線で接し、人格の尊重と共にプライドを傷つけないようにしている。接遇マナー研修で学んだことをスタッフ会議で話し合い一人ひとりへの対応を共有し、プライバシーにも配慮しながら取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に選択する機会・場を設けている。中には希望の表出へ働きかけを行っても家族側での受け入れがされないケースもある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大事にし、延食や食の要望に応じ支援している。「自宅へ行きたい」「床屋へ行きたい」訴えに即日対応した。入浴が好きな方へ時間を気にせずゆったり入浴していただいた。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択。個別での買物の付き添い支援を行った。理・美容店への対応。外出が困難な方には衣類の訪問販売や通信販売を利用した。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に聞き取り、要望に応じている。外食や出前を取り、気分転換を図っている。	買い出しや下ごしらえに手伝いをもらい、畑で収穫した野菜や季節の食材を取り入れながら、利用者の状態や好みに合わせ調理して、皆から喜ばれる食事を提供している。外食や誕生会などでは本人の好物メニューを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせて食事形態を変え提供。好みの飲み物の提供。食事摂取が難しい方は医師の助言・指示により提供。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて支援している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導で排泄を促している。排泄時ズボンの上げ下げが困難な方には介助を行い、オムツにならない支援を行っている。	排泄チェック表によりトイレ誘導を促し、自立に向けてレベルアップ出来るよう支援をしている。羞恥心や自尊心にも気を配り、清拭などさりげなく行い清潔感を保てるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多様な飲み物を準備しており、好みの飲み物を提供している。希望よりのむヨーグルトを提供している。水分の自力摂取困難な方には介助を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	意見の言える方と言えない方がいらっしゃるので、入浴の空いた方を優先に入浴していただいている。菖蒲湯やゆず湯、バラ風呂や入浴剤にて楽しんでいただいた。	希望する時入浴できるように取り組み、1対1の対応で会話をはさみながらゆったりとくつろいで入浴を楽しめるようにしている。手すりやマット設置で転倒防止にも気配りしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々、個人の生活リズムに合わせて休息の支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時、ミーティングでの情報共有されている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケやドライブの実施。 家事活動の支援。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花の見学や近所への散歩。地域の方々の交流を図っている。	桜・つつじなど季節の花の見学や小野川温泉へのドライブなど外出する機会を数多く取り入れ、皆が気分転換できるようにしている。また、畑仕事や買い物・床屋・銀行・外食等に出かけたりして、地域での生活実感を肌で感じてもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際、好きなものを買っていただき立て替え請求している。 家族から一旦お金をお預かりして、小遣いとして本人持ちで使われている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケータイ電話を持ち、家族と常に連絡が取れる状態となっている。季節ごとにご家族とハガキのやり取りを支援した。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、花の好きな方に喜んでいただいている。 居室・食堂は季節に応じた装飾をしている。 都度ソファの位置を変え、TVを見やすくした。	テーブルの折々の花で季節感が味わえ、笑顔あふれるスナップ写真・書初め・絵画などが飾られている。ソファや椅子でテレビを見たり、調理の匂いを感じながら、ゆっくりくつろげるスペースになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファの設置。個人で思い思いに過ごされている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前から使用しているものを持ってきていただき使用していただいている。本人や家族と相談し意向に合わせた支援を行っている。</p>	<p>自宅での暮らしの思い出のものや使い慣れた物を持ちこみ、落ち着いて暮らせるようにしている。出来る方は掃除を手伝い清潔に努め、またタンスの角の保護や転倒防止等安全面にも配慮している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ・浴室・廊下に手すり設置。転倒予防のマット、センサーの設置により安全に過ごせるよう配慮している。</p>	/	/	